

【1】診断の基準に関する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶/注意・集中/運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア	
診断の基準に関する項目	現れている行動の例	具体的な行動			
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに関係なく行動する 一人でいることを好む 同世代の人と上手につき合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人といっしょに活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい		見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい/共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で組み立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(☆欄から) 自分と周囲との関係や感情などを見る形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える 着目すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使わないようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何をやる」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やジグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等状に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう			
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動できない/指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である/特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的で曖昧な(ちょっと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない/字義通りの理解(言外の意味を把握できない)		見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音声言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強くて狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(☆欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出すための工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の場の設定をする 会話の場の人数などにも配慮する その他
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレーンなど)で気持ちを伝える コマーシャルやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない 自分にしかわからない言い方で伝えることがある(掃りたくなると「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)/使えても助詞(がのにを)を間違える			
	やり取りが難しい	視線が合わない/アイコンタクトが取れない やりとりができない/かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す/自分が知ることは相手も知っている前提で話をするができない 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい			
想像力の特性	変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある/必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更が弱い 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのこと)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけることが苦手である		自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強くて狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目から入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(☆欄から) 最初から正しい方法で学べる準備をする 予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の使い方を統一する 順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に意味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする 忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする その他
	物の一部に対する強い興味	標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返しの再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある			
	常同・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す/長時間続ける 自分なりの手順、日課、道順などの自分ルールが多くある			
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがるなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを目深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 嗅覚(臭覚)/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど		感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 鈍麻さを補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他	生かせる強みがある(☆欄から) 必要な刺激は保証する 苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤーマフ・サングラスなど)をする 他刺激で代用をするなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他
☆得意なこと・強み・できること・好きなことなど					